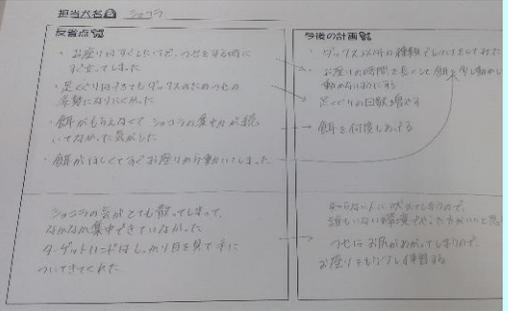


主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業・水産）

1 日時・場所	令和2年11月5日（木）5・6限	犬舎，教室
2 対象・人数	生物生産科アニマルコース 11名	
3 科目・単元名	総合実習	イヌの飼育管理
4 本時の目標	イヌのしつけの意義を理解し，イヌが人間とよりよい関係を築いていくためにはどのようなトレーニングを行うとよいかを考える。	
5 生徒の実態や課題	アニマルコースは，2年次からのコース分けでアニマルコースを選択した生徒であり，動物の中でも特に愛玩動物に興味・関心をもっている。10月より愛玩動物と資源動物の専攻に分かれて実習を展開している。家庭でイヌを飼育している生徒は約半数で，実際の扱いが不慣れな生徒もいる。イヌのしつけを題材とすることで，知識や技術を習得させるとともに，自主的かつ主体的に学習に取り組む力を養いたい。	
6 主体的・対話的で深い学びの場面	<p>(1) イヌのトレーニング方法を視聴し，その手順をイメージすると同時に実際に対象となる本校のイヌではどのように行うべきか思考する。</p> <p>(2) 「ターゲットハンド」，「オスワリ」，「フセ」を実践し，イヌとの信頼関係を高める方法や距離感を縮める方法など，今まで学習したことと結び付けてトレーニングを行う。</p> <p>(3) 互いにスマートフォンを用いて撮影した動画を共有して反省点などを出し合うことで，今後どのようなトレーニングを行っていくとよいかを話し合い，発表をする。</p>	
7 今回の研究テーマ	BYODを用いた実験実習の実践と検証	
8 準備・打ち合わせ	<p>(1) 教材 イヌ（ミニチュアダックスフンド3頭，柴犬1頭，ミニチュアピンシャー1頭），トリーツ（ドッグフード，イヌ用ジャーキー），スマートフォン（5台），タブレット端末（iPad）</p> <p>(2) 準備 実際にイヌのトレーニングをしている様子を撮影し，三つのトレーニング方法を動画で示せるようにする。</p> <p>(3) 打ち合わせ BYODによる実習を実施することを職員会議で周知するとともに，生徒にBYODのルールを事前指導する。実習教員との打ち合わせでは，BYODの活用による実習について詳細を確認する。</p>	
9 仮説	<p>(1) イヌのトレーニング方法について，事前の動画を見ることでイメージができ，スムーズにイヌと触れ合い，興味・関心をもち積極的にトレーニングを実施できるだろう。</p> <p>(2) 動画を見て振り返りをするすることで，客観的に物事をとらえることができ，自発的・協働的に今後の見通しを立てられるだろう。</p>	

10 評価するポイント	評価の観点	A (十分に満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
イヌの飼育について興味・関心をもち、飼育環境の改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	関心・意欲・態度	実習に積極的に取り組み、観察の結果を適切にまとめ、発表することができている。	実習に積極的に取り組み、観察の結果を適切にまとめることができている。	実習の結果をまとめることができていない。
イヌの飼育に関する総合的な知識と技術を基に、イヌに関わる者として適切に判断し、飼育の過程や結果を適切に表現している。	思考・判断・表現	個体に合ったトレーニング方法を考え、的確な改善案を提案することができている。	個体に合ったトレーニング方法を考えることができている。	個体に合ったトレーニング方法を考えることができていない。
11 主体的・対話的で深い学び場面など			トレーニング動画の撮影	トレーニング動画の検証
			トレーニングの共有	トレーニングまとめシート
	<p>12 生徒の変容</p> <p>事前アンケートにおいて「実習で自分の意見を積極的に言える」を4段階で回答したところ、その平均値は2.90であった。また、「自分で考えて実習に取り組める」という質問に対しても平均2.90と、動物について学習する意欲は高いものの比較的受け身な姿勢で取り組む生徒が多かった。実習後のアンケートではどちらも上昇しており、この取組の効果を感じることができた。また、BYODを用いる実習を行うことで、「スマートフォンやパソコンを学習に取り入れることができている」の項目も上昇した。</p>			
	<p>13 検証と考察</p> <p>事前に教材を準備し、実習のイメージをもつことでスムーズに取り組むことができ、意欲的にトレーニングを進めることができた。教材については、ICTを活用したが、動画は作成に時間がかかることや、実習の場面により理解しづらいこともあり、今回は図示する形でイメージしやすい工夫を行った。実習する様子からポイントや注意すべきことを意識する姿が確認でき、理解を深めることができた。また、BYODを用いて実習の様子を互いに撮影し合い、動画を見て振り返ることで、自分自身の実習について見直すだけでなく、自発的・協働的に今後の見通しを立てることができたと考えられる。</p>			
<p>14 振り返りと改善</p> <p>トレーニングでは、ふだんと違う環境によりイヌの集中力が長続きせず、予定していたしつけを行えなかったグループがあった。その場の環境も考えて、今後は実習の計画を立てていく必要がある。また、動画の撮影途中にスマートフォンを落としてしまう生徒がいた。BYODを用いる場合、このような事故も想定して対応できるようにしなければならない。</p> <p>トレーニング後、動画を見ながら今後の計画について意見を出し合う機会を設けた。スマートフォンとタブレット端末の画面を見ながら検討をしたが、スマートフォンは画面が小さく見づらかった。スマートフォンと 프로젝タを接続できるようにするなど、グループワークにもBYODが活用できるように今後改善をしていきたい。</p>				